

ホーム名：うららの家					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症があっても障害があっても、住み慣れた地域で暮らしたいという希望をかなえるホームとして、「1人1人が心豊かに個性豊かに」を理念とし実践している。	管理者は、「入居者が特別な存在でなく、地域の中で普通に生活出来るよう支援すればよい」と、常々職員に伝えている。法人としての理念とは別に、職員自作の詩形式の理念を、エレベーターホールに掲示している。	職員発案の理念「ちょうどいいを心がけて」を皆で共有し実践している。アットホームな雰囲気の中会話が弾み、楽しい日常生活が伺える。今後とも、自分たちも住みたいようなホームを目指して尽力頂きたい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出た時に地域の方々とお話をしたり、地域の夏祭りや盆踊りを一緒に踊ったり、冬はクリスマス会に地域の方々をお招きして、一緒にお食事をしたり劇を楽しんだりしています。	運営推進会議への参加を始め、地域住民へ事業所便りの回覧や、カラオケ大会の審査員、夏祭りには近隣の子供たちにゲーム券を配布したり、入居者の食事コーナーを路地に設置し、地域の人と同席する等の交流をしている。	事業所の行事計画を掲示板に張る予定で、尚一層地域に向けて開かれた施設となるよう期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が訪ねて来られて、グループホームの見学や認知症に対する質問に、分かりやすく答えるようにして、地域への貢献と交流を図るようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を重ねるたびに自治会や老人会の方に理解を得ることができ、自治会の方からバーベキュー大会へのお誘いや「うららの家」からのカラオケ大会へのお誘いをして、地域の方々に受け入れていただけるようになってきています。	会議には家族代表、自治会長、老人会長、民生委員、地域包括支援センター代表等の参加により、ホームの近況報告や、行事への協力体制、夏祭りの反省、家族会の報告等について、色々な立場からの意見を交換して運営に活かしている。	会議の議事録が、録音テープを起こしたような体裁になっている。要旨を纏めて記録されると読み易くなる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	日頃から、市役所の方と交流を図り指導を仰ぐようにしており、地域包括支援センター主催のグループホーム交流会に参加して、交流、情報交換に努めている。	高齢福祉室は年1回の実地指導や、スプリンクラー設置に伴う入札の仕方について相談している。グループホーム交流会では、「職員の定着について」「運営上の悩み」「ヘルパーの意識の向上」等について話し合っている。	運営推進会議議事録や、会議開催の案内状を市の担当者に渡す等して、担当者の出席を働きかけたい。介護相談員は、月に1回、入居者の話し相手として訪問している。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束について常に職員間で話し合い、情報交換を行って、会議でも話すように努めており、入居者の方の気持ちを理解し、寄り添う介護ができるようにしている。	皮膚の掻痒感が強く、血が出るまで身体を掻きむしる入居者がいる。爪を切り、皮膚を清潔に保ち、軟膏を塗布しても改善しないため、つなぎ服を着ている。	つなぎ服の着用は、妹夫婦の了承のもと、安全と保護を優先した結果ではあるが、1日も早い回復に努力されたい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について学習して、入居者の方の生活が有意義なものになるように努めている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護について学習し、入居者の方の必要性について、会議で話し合っている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書を分かりやすく説明し、疑問なことには答えて、十分な理解、納得を得るように努めている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置し、ご意見を言いやすい環境を整えて、グループホームの行事にも参加していただくようにして、理解、協力を得るようにしている。</p>	<p>家族会が組織されており、意見や要望を、管理者や職員に伝えている。前回の家族会は昨年6月に開催され、介護計画、病院受診支援、趣味に関する要望と、外注ではなく手作りの温かい食事に対する感謝の言葉が記録されている。</p>	<p>家族だけで話し合い、家族会代表が意見、要望を提出する等、気兼ねなく意見の出せる環境作りも考慮頂きたい。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>定例のミーティングや日々の引き継ぎの時に意見を聴くようにしている。</p>	<p>職員の意見や提案は、月1回の職員会議の他、全員が揃うのは困難なので、必要なメンバーで話し合い業務に反映させている。</p>	<p>業務の改善に関する職員の意見は、職員会議で検討の上、運営に反映されると良い。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>1人1人の職員の個性や意欲を把握し、より向上心を持って働く事ができるように、環境や条件を整備している。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の声を聴き、ケアの実情を把握して、研修の機会を持つようにして、技術の向上につとめている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>グループホーム交流会や介護支援専門員協会の学習会や交流会への参加を通じて、同業者との交流や情報交換、意見交換の機会を持って、サービスの質の向上に努めている。</p>		

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居者の想いを聴き取り、受け入れて、ゆっくり時間をかけて環境や他の入居者の方や職員にも慣れていただくようにして信頼関係を築くように努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族が今までに行ってきた介護への労わりの気持ちと、その時の気持ちを聴き取りながら、今後へのアドバイスを行って、安心していただいで、信頼関係を築くように努めた。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>主訴や現状、病歴、生活歴を聴き取り、必要と考えるサービスをアドバイスして、安定した生活を送ることができるように努めている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員と共に洗濯物を干したり、畳んだり、歌を歌うときは楽しい時間を共有して、笑顔が絶えない生活の場になるように努めている、</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族が来られた時には、ご本人と一緒に話し合う時間を持つようにして、お互いが理解し合って共にご本人を支えて行くように努めている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>居室に夫や両親との思い出の写真等を飾って、懐かしく眺めておられたり、友人から電話がかかってくることもある。年賀状を出す時も楽しくお手伝いしている。</p>	<p>地域の人の訪問や、友人との電話による交流、又住宅地内での散歩時に、犬の散歩中の近隣の人と話すこともある。希望者には自筆で年賀状や、暑中見舞いの交換を継続できるように支援している。</p>	<p>今後も懐かしい場所への訪問や、大切な友人関係を継続できるような支援をお願いしたい。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>周囲の方のリーダーシップをとる方もおられ、和やかな雰囲気になっている。周辺症状のある方も間に入って楽しく過ごしていただくように努め、笑顔が広がってきている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>共に生活をしていくという考えのもとにケアをしていき、契約終了後も支援するように努めたい。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人でゆっくり過ごしたい方や他の方と賑やかに楽しく過ごしたい方、それぞれのペースで過ごしていただいている。散歩や買い物に出かけたい方も、時間を調整して対応している。	本人の希望に応じて、買い物や散歩、旅の好きな入居者は年1回の一泊旅行を楽しんでいる。1月2日には住吉大社へ入居者9名全員と、職員、管理者の家族総出で初詣に出かけた。	旅好きな3人の入居者にとって、3人の職員が付き添っての旅行は、大きな喜び、生きる楽しみになっている。可能な限り継続できるよう願う。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	ご本人やご家族、主治医、担当の介護支援専門員等から生活歴やサービス利用の経過の把握を行い、今後のご自分らしい生活を過ごしていただく上で参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の一日の生活のリズムを聴き取り、なるべくそのリズムに沿って、健康的なご自分らしい生活をしていただくように心がけている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の想い、ご家族の想いを大切に、主治医やスタッフの意見を聴き取って介護計画を作成している。できた計画書についても話し合っ、よりよい生活を送ることができるよう努めている。	職員は、入居者が満足する暮らしができるように、普段から入居者の気持ちを聴くようにしており、また主治医の往診時や、家族の訪問時に夫々の意見を聴き取って、それらの意見を反映した介護計画を作成している。	家族が介護計画書をじっくり見て検討し、意見を述べる時間を与えて欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りや気づきのあった時に話し合ったり、毎月定例の会議で話し合い、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療系サービスや介護相談員の訪問、ボランティア等のインフォーマルなさ一びずも組み合わせ、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の盆踊りへの参加等自治会や老人会との交流がある。今後も自治会主催のバーベキュー大会へのお誘いもあり、地域から受け入れていただいております。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医へ家族と共に受診している方もおられ、かかりつけ医や看護師との関係も良く、安心して受診が継続できている。	提携先の医師は月1回の定期来診、体調悪化時の随時来診、電話による指導、他の医療機関への連携紹介、入居者・職員の予防注射などホームの健康管理をバックアップしてくれている。	医師・看護師から職員は介護上の指導を受けることができる。24時間の問い合わせにも対応、夜中でも他医療機関への紹介状をFAXして下さるなど、ホームとしては信頼できている。

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>受診の際、直接、かかりつけ医や看護師に状況を説明して助言を受けるようにしている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時は、職員が付き添って主治医に経過を説明して、よりよい治療に備え、早い退院ができるように協力している。</p>		
33 12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期医療に向けた研修を受けていて、今後の方針について話し合っている。</p>	<p>ホームを設立して6年を経た現在までホームでお葬式を出した入居者は3人になる。ずっと一緒に暮らして来て最後までお世話するのは当然と管理者は考えている。医療が必要でない場合、看取り加算は申請してなくてもターミナルケアはするとの方針である。</p>	<p>入居者が生前「故郷のお墓は自分が建てた」といっておられたので四国まで納骨に行き、菩提寺に永代供養を納めた。自分の親と思ってホームで接していると管理者の話である。職員も管理者の方針を理解し協力している。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時に搬送する病院は決めていて、気道確保や人工呼吸、心臓マッサージの研修を受けている。</p>		
35 13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>安全計画書を作成し、避難の経路を考えたり、各人の特性をわきまえて、災害に備えている。</p>	<p>消防署の指導の下、年に2回の避難訓練はしている。広域避難場所は近隣の小・中学校で歩いて5分ほどである。スプリンクラーは23年度に設置の予定である。自動火災通報装置は設置した。</p>	<p>備蓄品は近隣の管理者宅に置いてあるものも有る。内容を精査し、足りない物を準備してホーム内で保存することが望ましい。ホームのエレベーターホール、踊り場には物を置かない工夫をされたい。</p>

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>人生の先輩であるということをおまえて、敬意を表して接して、他の入居者の方の前でも個人情報には注意して、プライバシーを損ねないように対応している。</p>	<p>一人ひとりの入居者が、思い通りに生活できる支援を目指している。強制することなく、生きてこられた人生に敬意を表して接している。</p>	<p>飾り気ない本気で入居者に向かっている管理者・職員の熱意は入居者にも伝わっているのか、穏やかな表情で暮らしているように見受けられた。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日常生活の会話の中でも、職員が決めることなく、ご本人の言葉で思いや希望を伝え、決定することができるように働きかけている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その日の気持ちや体調に合わせて、一日を過ごしていただけるように声かけして、散歩に出かけたり足浴をしたりして、希望に沿って過ごしていただいている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>化粧水を居室の置いて、肌に気を遣っていたり、一日何回か洋服を変えておしゃれをしている方がいる。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>お好み焼きを職員と一緒に作ったり、枝豆やもやしの下ごしらえをしている。どうしても嫌いなものは、他のものに代えて提供している。食器の後片付けも職員と一緒にしている。</p>	<p>食事はホーム内で調理し、入居者の好みにも配慮し、嫌いな物を無理強いはいしない。6年間12月31日にお餅つきをし、つきたてを（あんこ、黄な粉、大根おろしポン酢）食べる。小さく切って喉のつまりなどは起こしていない。お正月は御節も準備する。</p>	<p>高齢者の最大の楽しみは食事である事、美味しい食事を入居者に食べて欲しい。そのためにもホーム内手作りを続けると管理者は語る。入居者も出来ることはして、美味しい食事づくりを続けていただきたい。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>栄養のバランスや水分の摂取量を、1人1人に合わせてとることができるように配慮しています。水分摂取の多すぎる方には、摂取量を抑えるように気をつけている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>歯磨きや入れ歯洗浄を1人1人に合わせて行っている。月1回の訪問歯科で口腔ケアを行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>入居者の方それぞれの排泄の状況に合わせて、時間を見てトイレ誘導したり、ご自分で出来ることはしていただく等、排泄の自立に向けて支援しています。</p>	<p>オムツの使用者は少ない、職員がリズムをつかみ、出来る限り誘導し自立排泄継続を支援している。</p>	<p>排泄の自立は入居者本人が一番望むところであり、尊厳の確保の場面でもある。管理者は最後まで自立排泄が大切との考えで支援している。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>繊維質の野菜等や水分摂取に気をつけて、日中は運動をするように心がけ、便秘気味な方にはかかりつけ医に相談して助言を求め等して、便秘の予防に努めている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>1人で入浴出来る方は、職員が声かけしながらゆっくり本人のペースで入浴したり、1人1人の体調や希望に合わせて、入浴の時間を楽しんで頂けるようにしている。</p>	<p>お風呂は毎日沸かす、2週間で5回は入浴するように支援している。1人の入居者は見守りで入浴できるが、その他の入居者には付いてはいる。入浴は午前10時から開始、午前中には終わるが、時に午後になる日もある。</p>	<p>入浴はスキンシップの機会であり、くつろいだ入浴時間となる支援をしている。毎日寝る前は全入居者に陰洗をしている。個浴が困難になった場合は、1階に設置してある機械浴が使用できる。</p>

46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の生活習慣の睡眠や休息の時間は把握しているが、その時の体調や希望によって、居室を整えて気持ち良く休んでいただくように心がけている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を読んで、薬の副作用や用法、用量を理解するようにして、体調に変化があった時には、かかりつけ医に相談して協力を得るようにしている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、茶わん拭きや洗濯物干し、洗濯物たたみ等の役割を持っている方には、できる限りしていただくようにしたり、散歩やカラオケ、トランプ等の楽しみを持つ方は、職員と一緒に楽しむようにしている。		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日々の生活の中では、散歩や買い物に出かけたり、お花見、外食、旅行等、入居者の方の希望に沿って、生活意欲が向上するように努めている。	散歩・外食・旅行など外出支援をしている。ホームに住んでいても普通の生活が送られるようにとの管理者の意向の下、変化ある生活支援をしている。	散歩・お花見等自然に触れることで季節の移ろいも感じ五感刺激され、足腰も鍛えられる。ホームに入居して旅行は諦めていたかも知れない入居者には旅行は大変うれしい支援になっている。近所の外食はグループに分け全入居者が行くことが出来る支援をしている。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお小遣いを持って、外出時におやつや宝くじを買っている方や、家族の方がお金を管理し、お財布に入れてあげて楽しみにしている方もいる。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族への電話や年賀状等の希望のある方には、電話を取り次いだり年賀状を買いに行ったりしている。		
52	19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に環境整備を心がけ、冷暖房にも気を配り、入居者の方が快適に過ごしていただく事ができるように心がけている。また、季節ごとに壁に飾り物をして、季節感を味わって頂く事ができるように工夫している。	グループホームは2階に有り、リビングには天窓があり、明るい室内になっている。踊り場には職員がホームの理念を取入れた詩が掲げられている。エレベーターホールに置いてある物は最近作った物置に片付けるとのことである。	「ちょうどいい」広さのリビングである。ホームの理念が、詩に織り込まれて掲示されている。ソファでドリルを音読する人、となりの人の背中をさすっている人、「みんなが家族」との詩の一節の風景を垣間見た思いであった。
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	階段上の踊り場にソファを置いて、1人の時間を過ごすことができるようにしたり、リビングのソファでは、気の合った方同士が座って話ができるようにしている。		
54	20 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたタンス等の家具を入れていただき、神棚や仏壇、写真、置物等を置いて、住み慣れた居心地の良い空間になるようにしている。	居室は自分の部屋として仏壇・神棚・写真・置物等を置き、今までの思い出の継続が出来る部屋になっている。ベッドは一人の入居者以外はホームで設置している。	自宅で家族と暮らしているようなホームにしたいという管理者の意向が反映され、居室は落ち着いた生活できるように家族、職員の協力のもと設えられている。どの部屋にも時計・カレンダーは設置されている。
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや誘導灯、階段状のスライド柵、エレベーター等を設置して、一人ひとりが安全に生活できるように配慮している。		

V アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない